

クリスマスの たこ

トーマスは わくわくしていました。この ちょっとした
仕事^{しごと}を 毎日^{まいにち} わすれずに するようになっってから、もう
1 週間^{いっしゅうかん}が たちます。トーマスの 表^{ひょう}には、ピカピカの
星^{ほし}が 七つ^{なな}、はられていました。星^{ほし}が 七つ^{なな} ついてると
いうことは、トーマスが ずっと ほしがっていた たこを
お父さん^{とう}が 買^かってくれると ということなのです！

お父さん^{とう}と トーマスは、上着^{うわぎ}を 着^きて ぼうしを
かぶり、おもちゃ屋^やさんへ たこを 買^かいに 行^いきました。
たこは 明^{あか}るい 黄^{きいろ}色^{いろ}で、茶^{ちゃいろ}色^{いろ}と 白^{しろ}の ワシの 絵^えが
かかれていました。





「お父さん、もう たこを あげても いい？」

トーマスは ^{はや}早く たこを あげたくて、うずうずしています。

お父さんが ^{わら}笑って ^い言いました。「もちろんだとも！
フェアガーデン公園へ ^{こうえん}行こうか。そこなら ^{ひろ}広い
グラウンドがあるから、たこを あげるには もって
こいだ。」

きのうは ^{ゆき}雪が ^{すこ}少し ふっていましたが、今日は
^{そら}空も ^{あか}明るく、公園の ^{こうえん}向こう ^む側に ^{がわ}立っている
はだかの ^き木の ^{えだ}枝は、^{かぜ}風で ゆさゆさと ゆれて
いました。

お父さんは ^{とう}たこを ^も持ち、トーマスには
たこ糸を ^{いと}渡しました。そして トーマスに、
はなれて ^た立つようにと ^い言いました。「わたしが
たこを ^{はな}放したら、^{かぜ}風 ^むに ^{はし}向かって 走るんだ。そして、
たこが ^{たか}高く ^{はし}あがるまで、^{つづ}走り続けるんだぞ。」

とう お父さんが たこを はな 放しました。 トーマスは

むちゅうで はし つづ 走り続けました。たこは トーマスの
うし 後ろで なびいていましたが、 かぜ 風が ヒューっと
ふいてくると、 いっ き そらたか あ 一気に 空高く まい上がりました。

トーマスは、 はし 走るのを やめました。「見て、
とう お父さん! たこが と 飛んでる!」

ふたり 二人は、たこが あちに む 向いたり こっちに
む 向いたりしながら、ひらひらと まうのを ながめて
いました。とき つよ かぜ 時たま 強い 風が ふいてきて、たこを
たか もっと 高く ふきあげました。たこが ふき飛ば
されないように、 トーマスは いと ま 糸巻きを しっかり
にぎりしめていました。





けれども、まさに そのことが ^お起こったのです！

^{つよ}強い ^{かぜ}風が ふいてきて、たこは もっともっと ^{たか}高く
ふきあげられていきました！ そして ついに、
^{かぜ}風は トーマスの ^て手からも、糸巻きを ^{いとま}ぐいっと
うばい^と取ったのです！ お父さんは とび^あ上がって
たこ糸を ^{いと}つかもうとしましたが、たこは ^{かぜ}風で
^{そらたか}空高く まいあげられてしまって、トーマスも
お父さんも、もう ^{いとま}糸巻きには ^て手が とどきません。

その日、トーマスは ^{かな}悲しそうに お父さんと
^{いえ}家に ^{かえ}帰って ^い行きました。

その夜、ねる準備をしながらトーマスが
言いました。「お父さん、だれかがぼくのたこを
見つけるといいな。」

「ずっとたこをほしがっていた子が
見つけられるように祈ることもできるぞ。」と
お父さんが言いました。

「特別なクリスマスプレゼントが必要な子が
見つけるといいね!」 トーマスもうなずいて
言いました。

「イエス様。ぼくはあのたこが大好きでした。
だけど、もうそれはありません。どうか、
クリスマスプレゼントにたこが必要な子がそれを
見つけられるように助けてください。ずっとたこを
ほしがっていた子が見つけられますように。

アーメン。」と、トーマスは祈りました。

トーマスは、気分がすっきりしました。イエス様が
祈りに答えてくださるとわかっていたからです。





クリスマスの日に なりました。 トーマスは、

今年の クリスマスが 今までで 最高だと
思いました。おいしい クリスマスの 朝食 を 食べ、
その後は クリスマスツリーの 下に 置いてあった
プレゼントを 開けました。そして 今度は、
フェアガーデン公園の 入り口に かざってある
イエス様の たん生の 場面を 家族で 見に行く
ところです。

公園に 着くと、イエス様の たん生の 場面を
見に 来た 家族が ほかにも たくさん いました。
そして ふと、トーマスが 空を 見上げると・・・!

「お父さん！ お母さん！ 見て！ ぼくの

たこだよ！」

「ホントだわい！」と、お父さんも 言いました。

「見て、男の子が ぼくの たこを あげてるよ。」

お父さんと お母さんと トーマスと お姉ちゃんの
ケイトは、男の子が トーマスの たこを あげるのを
ながめていました。男の子は とても 幸せそうです。
そして、その そばに 立っている 男の子のお父さんも、
とても うれしそうでした。

「お父さん、ぼく、クリスマスプレゼントに たこを
すごく ほしがっていた 男の子の ところに イエス様が
それを 飛ばしてくださったんだと 思うよ。」

「きっと、その通りだね。」 お父さんも
うなずきました。

「そう なるように 祈ってあげたなんて、
やさしいのね。」 お母さんも 言いました。





「メリークリスマス。」 イエス様の 誕生の

場面を 見に行く とちゅうで 男の子と お父さんの
そばを 通りかかると、トーマスは 二人に 言いました。

「メリークリスマス！」 男の子と お父さんも、
うれしそうに 言いました。

トーマスは にっこり ほほえみました。やっぱり、
最高の クリスマスです。

お
終わり

文：アリーヤ・スミス、サイモン・ピーターソンによる話の編集

絵：アルビ デザイン：クリスティア・コーブランド

出版：マイ・ワンダー・スタジオ Copyright © 2011年、ファミリーインターナショナル

“The Christmas Kite”-Japanese

<http://www.mywonderstudio.com/0-5/2011/12/5/the-christmas-kite.html>